「負けじ魂」を継ぐ者

同志会顧問の緑健児「新極真会代表」の弟子である山野翔平さんと渡辺大士さんが第4回カラテワールドカップの代表になりました。

山野　翔平
やまの・しょうへい
新極真会　福岡支部
1983年4月30日、福岡県出身
165cm、70kg
第25回全日本ウエイト制大会
軽量級優勝
第40回全日本大会ベスト8

渡辺　大士
わたなべ・たいし
新極真会　福岡支部
1979年4月22日、鹿児島県出身
177cm、85kg
第25回全日本ウエイト制大会
重量級準優勝
第20回全日本ウエイト制大会
中量級準優勝

―ワールドカップ出場が決まってから約10カ月。自分の中で、何か変化はありましたか。

山野　一番変わったのはパワーですね。それをもっと組手で生かせるように。それが今のテーマです。

―パワー重視のトレーニングをしてきたんですか。

山野　はい。ウエイトトレーニングをしたり、短距離を走ったり、瞬発力を意識して。ウエイトも軽い負荷で回数をこなすだけじゃなくて、重い負荷を単発で上げたりしてできる筋肉もつけるようにしています。外国人対策ですね。力で仕せられないためには、ある程度の体が必要だと思います。打ち合えるだけの体ですね。

―どうすれば、スピードを落とさずにパワーを高められますか。

山野　走ることも一つですけど、基本稽古ですね。師範からも言われているんですけど、ウエイトをやって体がキツいから、流した稽古をしていたら使える体にはならない。基本稽古で腰を落としたり、キレのある動きをしていればスピードは落ちないと。実際、その通りにやってみるとスピードは落ちないんですよね。

―昨年はウエイト制、福岡県大会、全日本と、精力的に試合をしました。いい効果はありましたか。

山野　ワールドカップまで1年間あいてしまうと試合勘もなくなりますから、近い大会を目標にやってきたのは良かったと思います。福岡県大会も全日本も無差別なので、パワーがないと勝てない。だから、それに対応するトレーニングも少しずつ増やしました。それがワールドカップにつながってくるんじゃないかとも思います。結果もウエイト制で優勝、福岡県大会で準優勝、全日本でも8位に入ることができて、本当にうれしかったし、次も負けられないという気持ちになりました。ガムシャラにやってきた一年でしたけど、今年もいい意味でのガムシャラさを大事にしたいと思います。

―結果を出したことで、使命感がわいてきた？

山野　出てきました。自信もつきましたけど、このままじゃダメだというものも見えてきましたし、いい経験になりました。

―海外の選手も日本のチャンピオンである山野選手を警戒していると思います。

山野　研究されても勝てるように、意識を高めていかないとダメでしょうね。「自分がやるんだ」という気持ちで。海外の選手も、最後まで勝とうとする強い気持ちを持っている選手が多いですから、最後は気持ちの勝負になると思います。競り合った時に負けたくないという気持ちが熱くなりました。

―「小さな巨人」と呼ばれた緑健児代表が師匠として仰いでいるというのは、同じ軽量級として影響されることが多いのでは？

山野　現役時代のことも含めて、ヒントになることをいろいろ教えていただいています。最初は師範の華麗な組手にあこがれたんですけど、稽古をしているうちに気持ちの部分を勉強させてもらうようになりました。「あきらめない気持ち」ですね。それで勝負が決まると自分も思います。

―腸閉塞そくの手術と約1年のブランクを味わった末に初優勝を収めた山野選手ですが、そういった経験も自分自身を強くしたと語っていましたね。

山野　まったく稽古ができない時期もありましたから、優勝できた時は「自分でもできるんだ」という自信になりましたね。稽古の時間が、自分の運手も、キツい時にどれだけ力を振りぬけるかということを意識していましたね。つねにポジティブに考えるようにしていました。「あがく」というポジティブに考えようにして、やっていたら、試合中もあせらず体が動いたし、「絶対に勝つ」という気持ちがいい方向に、ポジティブになってきた気がします。

―ワールドカップに向けても、同じような心境ですか。

山野　はい。「絶対やってやる」という強い気持ちです。自分としては、組手をこなすだけじゃなくて、稽古をしていくことが大前提ですけど、いろんな面で日本人としての誇りを持って乗り込んでいきたいですね。

―また体が大きくなったような気がしますね。

渡辺　ウエイトトレーニングをかなりやって、今、85kgです。

―ウエイト制後のインタビューでは、ワールドカップには90kgで出たいと言っていましたよね。

渡辺　それはちょっと難しそうなので、87kgを目標にしています。自分はなかなか体重が上がらないんですけど、上がれば上がるだけいい試合ができると思います。去年、一番体重を上げている時は、ふだん間食することがないんですけど、その時はがんばって1日5食くらい食べてましたね。

―体重を増やしたことで、打たれ強さも増しそうですね。

渡辺　重量級に上げてから、ほとんどケガがなくなりました。昔は試合に出たら必ずどこか痛めていたんですけど、ただ、去年のウエイト制では久々にケガをしてしまいましたね。

―肋骨の骨折と足の剥離骨折ですね。でも、そういうケガを負いながら、あの塚本徳臣選手に勝利。自信になったのでは？

渡辺　たまたまだと思ってますが、自信にはなりましたね。本当に。

―あらためて、肉体改造をしてよかったと思いますか。

渡辺　良かったです。師範が言ってくださらなかったら、今も中量級でやっていたと思うんで、ありがたいですね。

―うまく体重を増やせたとして、動ける自信はあったんですか。

渡辺　当時は、難しいだろうと思っていました。実際、最初は動きが悪かったですからね。これまで重量級に3回出ているんですけど、1回目は本当に体が重かった。2年目で3位に入った時は、けっこう動けるようになってきたなと感じたんですけど。

―そして、3年目の昨年は準優勝。ワールドカップの代表権も獲得したわけですが、試合後は不満そうでしたね。

渡辺　決勝がふがいなさすぎて。せっかく塚本先輩に勝ちそうだったのに、決勝までいったのに、ちょっと気持ちが負けてしまって。先輩に悪いなと思いました。

―ケガもありましたからね。

渡辺　野本先輩だって同じような状態だったはずです。それでも、すごい集中していました。試合は、気持ちの部分が大きいと思うし、そういう部分も子供たちに教えていかなきゃいけない場ですからね。二度とああいう試合はしたくない。そういう意味では、いい経験だったかもしれないです。総合的にスピードを高めて、「絶対やってやろう」という心境になれましたね。

―今回の日本代表選手団では、若くして副キャプテンに選ばれました。

渡辺　選ばれたからには、その役目も果たさなきゃいけないと思いますけど、エネルギーにもなります。自分は毎年そうなんですけど、年が明けると燃えてくるんですよ。いつも元旦に稽古をするんですけど、そこで気持ちを入れるんです。今、すごく燃えてますね。去年はロシア大会に行って、ワールドカップの会場を見たんですよ。その時も、気持ちが熱くなりました。「絶対やってやろう」という心境になれましたね。

―体格やパワーでは外国人選手がまさっていると。渡辺選手が彼らに負けないと自信を持っていることは何ですか。

渡辺　スピード。動いて、打ち合って、隙を見て崩していく。チャンスがあれば上段を狙っていく。そういう動きと技では負けないと思います。総合的にスピードを高めて、それに一発一発のパワーがつけば理想です。

―そういう組手には近づいていますか。

渡辺　と思います。あとは気持ちですね。絶対効かされないボディをつくって、動き続けられるように稽古していきたいです。「稽古には絶対に負けてない」と思えるくらい稽古をしないとダメでしょうね。みんながそういう気持ちを持って臨まないといけないと思います。

―空手母国である日本の選手がも注目するでしょうね。

渡辺　こないだロシアに行った時も、それを感じました。いつも見られていると。あいさつ、食事、ちょっとした動作。そういうのを見ながら、学ぼうとしているんでしょうね。向こうの人たちもあいさつとか姿勢がしっかりしていましたから、よけい自分たちはしっかりしないといけない。試合に勝つとか、よけい自分たちはしっかんでください。小さな積み重ねが大きな力になって自分の自信となります。

夢　今はとにかく強くなって目前のワールドカップで優勝を目指し全力でがんばりたいと思います。

ワールドカップに向けて　とにかく後悔しない稽古を積み、試合では絶対にあきらめない事を念頭におき試合に望みたいと思います。

後輩にメッセージ　強くなるためには稽古しかありません。どんな簡単な稽古でも無駄な稽古はないので全力で打ち込んでください。小さな積み重ねが大きな力になって自分の自信となります。

夢　選手の間だけ空手に打ち込むのではなくずっと空手を続けて自分が師範や先輩に教えてもらった事をこれから子供たちに教え伝えていくことです。

ワールドカップに向けて　自分が優勝するんだという強い気持ちをもって一日一日を大事に全力で稽古して行きたいと思います。

後輩にメッセージ　とにかくうまくいかないことや詰めそうになることがあっても自分を信じて前進してください。必ず結果はついてきます。

今、すごく燃えてますね。「絶対やってやろう」という心境になれましたね。

気迫、パワー、スピード、動き、あきらめない気持ち。総合力で王座を取れるようにしたい。

お二人から同志会にメッセージを頂きました!!

夢 Dreams

新撰組同志会は、あなたの夢を応援します！

佐藤 達雄

早いもので新撰組での精神修行を終え、4ヶ月が過ぎようとしています。
3ヶ月という期間でしたが、オレンジカウンティ、モントレーパーク、ガーデナと本当にたくさん勉強させていただきました。
最初は、英語がわからないなどを念頭に自分でもなかなか前に進めませんでした。
そこで長尾さん、ノリさん、歩さんをはじめとする新撰組のスタッフの姿をみせていただき、時には怒られ泣かされた事もありましたが（泣）、最後の焼き鳥本店、ガーデナラーメンでは自分の意見も持ち、言葉以上の気持ちで取り組めたと思っています。
そして、我らが局長の絶対に諦めないという後ろ姿、物事に魂を込めるという心は今でも熱く胸に残っています。
改めてみなさん、本当にありがとうございました。
僕は今日本に戻り、とある事務所で働いています。ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが局長の縁で紹介していただいた極みの場所です。
ここで僕は少しでも今まで培ってきたもの、そしてロサンゼルスで教わった事を形に残したいと思っています。皆さんに出会えた事を感謝し、そしてこれからも新撰組の世界への発展を心より お祈り申し上げます。そして来る新撰組夏祭りで皆さんに再会できる事を楽しみにしております。

川崎 裕介

私はオーデンシステムという鹿児島県にある会社に営業という職種で入社させて頂きました。そこで自分を成長させる為に社長の御好意で社長の友人の経営している東京の『誠』で一週間修行させて頂きました。
最初は知らない土地で、知らない人達と働くという事で不安でした。でも東京で出会った人達と接していく中で、不安な気持ちも無くなり、もっとここで修行して、いろんな物を吸収して帰りたいと思う程に、楽しく充実した経験が出来た事に本当に感謝しています。
そこで自分なりに感じたのは、任された仕事は精一杯やり遂げ、目標を持ち生活する事が大切なんだと感じました。一週間と短い期間の経験でしたが、この経験を無駄にしないように、また、周りの人達に東京で修行させて良かったと思われるように、頑張っていきたいです。
まずは、自分の仕事を覚え自分で仕事を探ってくる事を目標にして、元気に生きていきたいと思います。

西 光一郎

"僕は焼き鳥王子"
「チリリリーン」僕は毎朝この音で起きる。
そして、準備をして、仕事に行く。これが、僕の朝だ。
僕の同世代には、ハンカチ王子やハニカミ王子と言われている人達がいる、僕は店に着いてからは、自分を焼き鳥王子と思って頑張っている。
自分の周りの多くの人達から毎日勉強をさせてもらい、今まで気づかなかったことを色々教えていただき成長させてもらっている。新撰組に入って非常に感謝している。この感謝するということも、この新撰組で教えてもらったことです。
今は元気で爽やかを毎日の目標にして生きています。
将来は、自分の店を開いて、元気をあげれるような店を作りたいです。

四元 斉佐

みなさんこんにちわ。LAでお世話になりました斉佐です。その節はスタッフの方々には大変お世話になりました。ありがとうございます。
LAから帰り、以前にもまして美容の仕事に打ち込んでおります。
元々、美容の仕事に携わるなんて少しも考えていませんでした。高校を卒業と同時に働きたいという気持ちがあり、入ったのが美容の道でした。しかし、今でも目標を持たながら、しっかり続いているのは自分でも驚きです。
さて、夢という事についてなのですが、僕の夢はこの美容という一つの仕事を通してお客様が本当に来て良かったと、少しでも感じて貰うことです。お客様あって自分たちもご飯を食べる事ができて生活もしていけると僕は思います。そうすれば自ずと、家を建てることができるし、巡り会った女性と結婚し、色々な人との出会いもあり、楽しい未来が待っていると思います。
それを叶える為には、楽な道だけじゃなく時には険しい道を通らないといけないと思いますが、自分を支える、良き家族そして仲間達もおります。自分だけで悩まず相談し、時には自分の力で目の前の高い壁を越えて、その先の一歩成長した自分の姿を認めてもらえるように、これからも頑張します。

飯野 喜憲

私は東京の『誠』で働いております「飯野喜憲」37才です。
私は『誠』で働く以前に、L.Aの本店の方でも3年間位アルバイトではありましたが、お世話になっていた事があります。
その時から早くも10年以上が過ぎました。L.Aで3年、『誠』で3年、合計6年、新撰組のもとで働かせて頂いて本当に思うことは、局長、直行さんを始め本当に皆さんハートが熱く、スイッチが入ると死んでしまうのではないかと思うくらいギラギラしている人達の集まりだなと、いつも思っております。そのおかげで自分も以前より熱いハートを少しは持てているのかなと感謝しております。
そして、本当にもっともっと真っ直ぐに生きていかなければと思わせられる人達に出逢えて、自分の人生というか考え方が良い方向に変わったと自分では思っております。そして、特に若い人達は出逢いを本当に大切にして自分の夢にゆっくりで良いと思いますので、その夢に向かって、真っ直ぐに前進して行ってほしいと思います。もちろん自分も右肩上がりで進んで行きたいと思います。
今の自分の夢は、先輩方にはもっと可愛がって頂けて、後輩達にはもっと頼られる男になりたいです。人間力を高めたいです。「誠」を少しでもLAの新撰組に近づける様に気張ります。
最後に局長、直行さん、そして、自分を支えてくれている皆様、本当にありがとうございます。心より感謝しております。

香川　椋　10才
世界一のダジャレ王になりたいです。
"チャイナに行っちゃいな"

"現場力を失うな"

不況はいつまでも続かない。
不況回復後、その結果が現れる。
不況時バタバタ焦った経営をした会社は世の中が正常に戻った時
すでに体力を失ってしまっている。
不況時焦らず慌てず冷静に
"人の為に"と考え行動をした企業はいつの時代も強い企業。
（改善の源はお客様）どんな時もお客様を一番と考える企業は勝つ企業。

七き通商産業大臣　村田敬次郎の言葉
"仕事もお金もたらいの中の水と同じ"
両腕を広げ、たらいの中の水を自分の所にだけ、
寄せ入れ込もうとしても水はこぼれ逃げ出してしまう。
たらいの中の水は片手で軽く前に押すだけで、
水は自分の所に全て戻ってくる。

楽しい仕事はない。
仕事を楽しくするのは自分次第。
楽しさを見つけだせば人間は想像以上の力を発揮する。
感謝の気持ちあるのみ。
そして、敵は自分の中にいる。
使命感を持ち生きる事が大事。
人が喜ぶ事にどれだけ力を注げるかが大事。
生涯現役、生涯青春。

鹿児島銀行頭取
永田 文治
1948年生まれ
（61歳子年）
鹿児島県立鹿屋高校卒
鹿児島大学卒
生え抜き頭取

同志 牧尾正臣さん社長就任おめでとう！

有限会社 MDS ＜マキオドライビングスクール＞

昭和３９年に祖父 牧尾松夫が普通・大型の自動車学校として設立しました。その後昭和４１年１０月、鹿児島県下では初となる自動二輪車公安委員会の指定校となりました。また昭和５５年７月には念願の四輪の公認指定校となりました。

『所信表明』

「ハマッド！！」やるならトコトン最後まで。祖父から父へ。そして、父から私へとこの度三代目として４５年の歴史ある学校を受け継ぎました。正直、私の知る限りでは一番厳しい時期でのバトンタッチとなりました。
しかしそんな時こそ「チャンスあり！！」社員と共に知恵を絞り出すだけ絞り、汗かき、行動する。必ずこんな時代でも光は見える。それは私の周りのすばらしい先輩方を見て思い感じました。先日、お陰様で盛大に行われました就任式で改めてそれを感じ、そして心に誓いました。
これからも自分に正直に真っ直ぐに突き進み、皆様から愛される歴史のある、こだわりのある学校づくりを目指し、一歩一歩前進していくことを同志会の皆様へ誓います。
平成２１年４月吉日　有限会社ＭＤＳ（マキオドライビングスクール）　代表取締役　牧尾　正臣

4月16日㈭、社長就任披露宴が盛大に行われました。

社長就任式　式次第
1. 会長挨拶　牧尾正恒
2. 挨拶　牧尾正恒
3. 淵之上阿久根警察署長挨拶
4. 株式会社マキオ　A・Zスーパーセンター
　代表　牧尾英二　挨拶
5. 和太鼓集団　野武士　代表　川原邦裕　挨拶
　（全九州太鼓連合理事長）
6. 来賓挨拶　神州太鼓　代表　小路美保
　来賓挨拶　鹿児島県太鼓連合　会長　竹ノ下武宏
7. 万歳三唱　株式会社丸竹産業　代表　田之上賢一
余興　神州太鼓　小路美保、村田辰也
　阿久根流太鼓　響流コール
踊り　藤間流　仁志樹会　中川好子

就任祝いとして、下記の皆様からハーレーダビッドソンが贈られました！

田之上賢一　副島　藤良　牧尾　誠
山川　学　大栄　年清　小路　美保
川原　邦裕　重信　秀峰　山口　里香
山口　浩宣　吉満　正弘　西村知恵子
重田　光康　川村　宣裕
稲　憲二　池脇　晋輔

MDS makio driving school
マキオドライビングスクール
〒899-1611 鹿児島県阿久根市赤瀬川1516
☎.0996−72−1026